ＡＣ学級研究部会

１　ＡＣ学級の研究について
２　年間計画
３　ＡＣ学級の日課表
４　ＡＣ学級の自立活動について
５　学習指導案について（小学部Ａ学級）
６　自立活動題材例
　　（小学部Ｃ学級、中学部Ａ学級、高等部Ａ学級）
７　全校研究会について
８　まとめと今後の課題

１　ＡＣ学級（重複学級・訪問学級を以下ＡＣ学級と表記する）の研究について

（１）研究のねらい

研究のテーマ　「児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業」

３つの柱を設定し、研究を行った。

①個々の表出について共通理解し、気付き、受け止め、言葉や動作で返していく。

・一人の子どもに対してかかわる教師、看護師、介助員間で表出について意味づけをし、共通理解を図る。

・表出について気付き、受け止めることでコミュニケーションを図り、言葉や動作で返すことでまた次に発信しようと思えるようなかかわりをする。

②児童生徒の興味関心を引き出し、自分から表出できる機会を増やす。

・児童生徒の引き継ぎ資料などを基に実態を確認し、さらに新しいことに挑戦することで児童生徒の「やりたい」「やりたくない」という気持ちを引き出す。

・個々の興味関心を授業づくりの中に生かし、主体的に取り組めるような機会を設定する。

③コミュニケーションをとる対象を友だちや担任以外の教師に広げ、やりとりをする。

・普段からコミュニケーションをとる学級内のかかわりだけではなく、同じ学部のＡ学級同士、Ｂ学級との交流などからやりとりをする対象を広げるようにする。

・かかわることの少ない人と同じ活動をしたり、自分の意思を相手に表出したりすることで、児童生徒がよりかかわりたいという気持ちを高め、コミュニケーション能力や QOL（生活の質）の向上につなげる。

（２）研究の進め方

①　各学部が１回ずつ授業研究を行い、その中の１回を全校研究会とする。

②　授業を見る際は、研究のねらいの３つの柱を意識して児童生徒と教師とのかかわり方について検討する。

③　研究会の協議内容や講師の指導を受けて、授業で改善したところや児童生徒の変容について振り返り研究を深める。

④　１年間の研究内容について実践報告を行う。

授業研究会で行った学習指導案を記載する。（小Ａ）

「題材例」を作成し、記載する。（小Ｃ・中Ａ・高Ａ）

２　年間計画

（１）授業研究会の日程

７月１３日（月）	高等部	部内研究会	
９月　９日（水）	小学部	全校研究会	講師招聘
１０月２１日（水）	中学部	部内研究会	

（２）講師について

保科　靖宏先生（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事）

３　ＡＣ学級の日課表

小学部Ａ学級

	月	火	水	木	金
９:００	自立活動　せいかつ（着替え・排泄・朝の会）・からだ・かだい・係活動				
１０:２５	自立活動　からだ・あそび・かだい				生活単元学習（行事に向けて）
１１:５５	自立活動　せいかつ（排泄・食事・歯磨き）				
１３:２０	自立活動　からだ・あそび・かだい				
１３:４５	自立活動　せいかつ（着替え・帰りの会）				

中学部Ａ学級

	月	火	水	木	金
９:００	自立活動：生活（着替え・排泄・水分補給）／身体／課題（個別学習）				
１０:２５	自立活動　生活（朝の会）				
１１:００	生活単元学習				自立活動　身体／課題（個別学習・集団学習）
１２:００	自立活動　生活（排泄・食事・歯磨き）				
１３:００	自立活動　身体／課題（個別学習・集団学習）		音　楽	自立活動　身体／課題（個別学習・集団学習）	
１３:５０	自立活動（着替え・排泄・帰りの会等）				

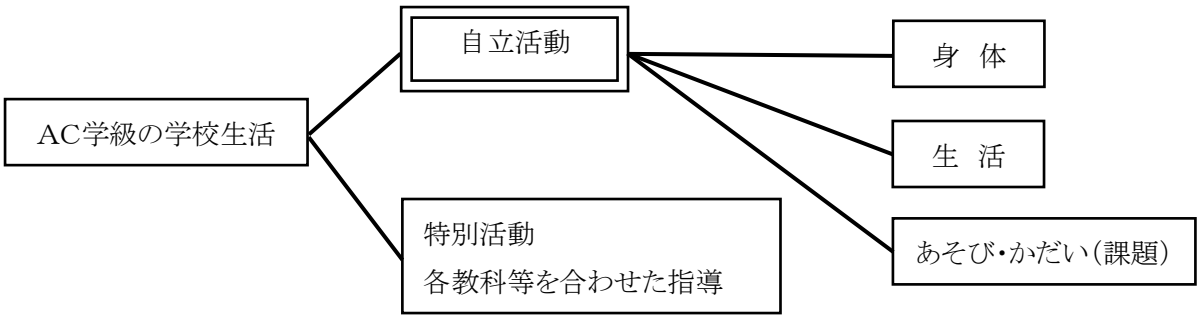
高等部Ａ学級

	月	火	水	木	金
９:００	自立活動：生活（着替え・排泄・水分補給）／身体／課題（個別学習）				
９:２５	自立活動　生活（朝の会）				
１０:２５	自立活動　身体／課題（学級活動･集団学習･個別学習）				
１１:１５	作業学習				自立活動　身体／課題(学級活動･集団学習･個別学習)
１２:０５	自立活動　生活（食事）				
１３:００	自立活動　生活（歯磨き・排泄）／課題（学級活動）／身体（外気浴）			選択教科	特別活動 部集会
１４:００	自立活動　生活（着替え・帰りの会等）				

Ｃ学級（小学部）

	月	火	水	木	金
１０:００ １２:００					
１３:００ １４:３０ １６:００	自立活動（小）		自立活動（小）		自立活動（小）

４　ＡＣ学級の自立活動について



自　立　活　動		
①　健康の保持　②心理的安定　③人間関係の形成　④環境の把握　⑤身体の動き　⑥コミュニケーション		
1　身体　※	**2　生活　※**	**3　あそび・課題　※**
○からだの学習 ○自立活動専任教師による抽出でのからだの学習 ○日常生活の中での動きや移動 など	○朝の会、帰りの会 ○係活動 ○排泄 ○着替え ○水分摂取、食事（摂食指導） など	○遊具あそび ○感触あそび・制作活動 ○歌あそび・音楽活動 ○光あそび ○本の読み聞かせ など
・日常生活に必要な基本的な姿勢や移動・運動動作を身につけられるようにする。 ・車椅子、座位保持椅子、歩行器、補装具、クッション等の補助的手段を活用し、よい姿勢を保つことやスムーズな動作を身につけられるように支援する。 ・力を抜いてリラックスできる姿勢や動きを身につけ、関節や筋肉の拘縮や変形を予防し、呼吸をはじめ内臓の働きを助ける。 ・学習（作業）に必要な姿勢や手足の動きづくりを目指す。	・生活に見通しを持って、身の回りのことをできる範囲で自分から行おうとする気持ちを育てる。 ・生活リズムや衛生意識を育て、健康的な生活ができるようにする。 ・あいさつや返事、快・不快や、はい・いいえ（要求や依頼）等の自分の気持ちを相手に伝える力を伸ばす。 ・一人一人の発達段階に応じて、食べる・飲む力を育て、おいしく楽しく安全に食べられるように支援する。 ・食事面ではスプーン・皿などの食具や支援の仕方を工夫し、自分で食べる力や意欲を育てる。 	・見る、聞く、触る、揺れるなどの基礎的な感覚を味わい、いろいろな刺激を受け入れたり楽しんだりする力を育てる。 ・好きな活動やできる活動を通して、選んだり、伝えたりする力を育てる。 ・個別学習では、一人一人に応じた教材や課題を通して、安心して人や物とかかわる力を育てる。 ・集団学習を通して、友達と触れ合ったり、かかわったりすることを楽しむ力を育て、自分から人とかかわろうとする意欲を育てる。また、大勢での活動に慣れ、見通しを持って参加できる力を育む。

※学習指導要領における自立活動の 6 領域をAC学級で検討し、独自に3つの学習に振り分けた。これらは独立したものではなく相互に関連している。

５　学習指導案について

小学部重複学級　自立活動　学習指導案

日　時　平成２７年９月９日（水）
　　１１：００～１１：４０
場　所　小学部　重複１組教室
指導者　T1、T2、T3、T4、T5、S1

１　題材名　　自立活動「おんがくであそぼう」

２　学習集団について

今年度の小学部重複学級は１組３名（１年生男子２名、女子１名）２組２名（４年生男子２名）３組３名（５年生女子２名、６年生女子１名）の計８名である。８名全員が日常生活全般において一対一での支援が必要であり、そのうち４名が医療的ケア（気管切開１名、気管切開と胃ろう２名、経管栄養１名）を必要としている。

身体面では、不安定であるが教師の支援があれば歩行可能な児童が４名、移動等には車椅子を使用している児童が４名いる。学習時は、座位保持椅子やクッションチェアー、側臥位や仰臥位の姿勢など、その日の体調に応じて姿勢を変えて学習に取り組んでいる。手の動きについては、自分で動かすことが難しい児童や、物に向かって手を出して触る、握るなどの簡単な操作ができる児童がいる。

認知面では、視覚については、個人差はあるものの注視・追視をしたり、見比べたりする様子が見られる。聴覚については、音や声のする方へ耳を近づけて聞く様子が見られる児童が２名いる。８名全員が流れている音楽を聞いて笑顔を見せたり、身体を動かしたり、歌詞を言ったりするなど、耳で聞いたことに何かしらの表出を見せている。中には、大きな音や突然の音が苦手な児童もいる。

コミュニケーション面では、ほとんどの児童が人からの働きかけを受け止めて、表情を変える、口を動かす、声を出すなどの方法で応えている。言葉でのやりとりは難しいが、声を出して Yes、No などを伝える児童もいる。以上のように、様々な実態の児童が在籍している。

３　題材について

小学部重複学級では、６月下旬より毎週水曜日に季節の音楽に親しんだり、楽器を鳴らしたり、音楽が流れている中で身体を動かしたりする「おんがくであそぼう」を実施している。それ以外の音楽的な活動としては、朝の会や帰りの会の歌や、集団学習での活動種ごとの始まりの歌がある。

朝の会の歌では、一人ずつ音の出るおもちゃやマラカス、鈴などの楽器を使用し取り組んでいる。自分の好きなものが決まっていて、毎回同じものを選ぶ児童や、その日にやりたいものを目で見たり、耳で音を聞いたりして選ぶ児童がいる。選択の方法としては、８名の児童が表情や身体の動き、発声などで伝えている。歌が始まると笑顔になったり、声を出して歌ったり、楽器を鳴らしたりして楽しむ様子が見られている。また、集団学習の始まりの歌では、歌を歌うことで次にどんな活動が始まるのか、表情や声に出して楽しい気持ちや期待感を表現する様子も見られている。

以上のように音楽的な活動は、８名の児童にとって興味関心の高い活動であると思われる。そのような活動の中では、友だちや普段かかわりの少ない教師へも自分の気持ちを表現し、伝えられるのではないかと考えた。

そこで、本題材では、自分のやりたい楽器やペープサートを選択することで、児童の興味を引き出すようにする。また、コミュニケーションをとる対象を、普段かかわることの多い担任だけでなく、毎回ペアを組む教師を変えることで、かかわりを広げられるようにしている。かかわりの少ない教師と一緒に活動をする中でも、自分の意思を相手に表出できる力をねらっている。そして、座る位置を円形にして取り組み、友だちの表情や動きにも目を向けられるようにする。また、毎時間「おんがく係」を決め、係になった児童はおんがく係のアイテムを身に付け、あいさつやプログラムをめくるなどの活動に取り組み、意欲的に参加できるようにしている。

本題材は、【はじまりの歌】【ペープサート】【楽器】【リラクゼーション】の４部で構成し、それぞれの場面でねらいを設定し取り組んでいる。

【はじまりの歌】では、その日ペアになった教師とふれあう機会とし、歌に合わせて身体の部位に触れることで、お互いに楽しく音楽が始められるようにすることをねらいとしている。また、手を使う活動があるので準備運動となるように、教師が手のひらにも触れるようにして「からだコンサート」の手遊びに取り組む。

【ペープサート】では、教師の提示した２色の風船のペープサートから、自分の好きな色のペープサートを表情や身体の動き、発声などで選択する。「ふうせんのうた」に合わせて、自分で選択した色のペープサートを引いて、風船を変身させる。繰り返しの歌詞なので、自分のペープサートをタイミングよく引くことや、期待感をもって友だちのペープサートに目を向けることなどをねらいとしている。

【楽器】では、教師が鳴らす楽器の音を聞いて、自分のやりたい楽器に視線を向けたり、手を伸ばしたり、声を出したりすることで自分の意思を教師へ伝え、楽器を選ぶ。児童の興味関心のありそうな音や感触の楽器や、児童の得意とする手の動きを取り入れた楽器も準備する。テンポがよい「ちきゅうはうたう」の歌に合わせて、自分から楽器を鳴らすことができることをねらいとしている。

【リラクゼーション】では、季節の歌である「にじ」に取り組む。にじのイメージがもてるように、それぞれが色とりどりのオーガンジーの布を持ち、歌を歌うようにする。児童、教師みんなで歌うことで、一体感を感じ、「楽しかったな」「またやりたいな」といった気持ちを自分なりの方法で表現する。また、歌の後半には大きなオーガンジーの布も使用し、教師が児童の頭上で上下にゆっくりと揺らし、気持ちも身体もクールダウンできることをねらいとしている。

全体の振り返りの時間は設けずに、それぞれの場面ごとにＴ１やペアになった教師が、その児童の様子を伝えたり、賞賛したりしていくことで「たのしかったな」「できた」などと感じられるようにし、児童の意欲を高められるようにし取り組んでいく。

これらの活動を通して、「たのしそうだな」「やりたいな」など様々な感情をもち、児童が表情や身体の動き、発声などで表現したり、自分で選択したりしていってほしい。その表情や身体の動き、発声などを教師が個々の楽しい、うれしい、やりたいなどの表出として共通理解し、しっかりと受け止め言葉で返すことで、児童自身が「伝わった」と感じ、さらに「また伝えたい」と思えるようにしていきたい。また、やりたい気持ちだけでなく、表情を変えなかったり、身体の動きや発声がなかったりした場合は、やりたくないという表出と受け止めていく。その場合は、そのときの気持ちをくみ取った上で、誘いかけなど表情や態度が変化する言葉かけをしたり、代替えの教具を提示したりして対応をしていきたい。そして、丁寧なやりとりを積み重ねることで、その表出をする相手を友だちや普段かかわりの少ない教師へと広げていってほしい。

４　題材の目標

・音楽の活動を通して、誰とでも楽しく活動することができる。
・自分のやりたいものを選択することができる。

５　指導計画（前期）　本時６／９時間

指導内容	６月	７月	９月
【はじまりの歌】 ・教師とのふれあい ・準備運動	「からだコンサート」 教師が身体の部位にふれる		一緒にふれる
【ペープサート】 ・ペープサートの選択 ・友だちへの意識	「ふうせんのうた」		
【楽器】 ・楽器の選択 ・自発的な動き ・手の操作	「ちきゅうはうたう」 一人ずつ選択		教師が一斉に問いかける
【リラクゼーション】 ・音楽に親しむ ・表情の変化や発声	「にじ」		

６　本時の指導

（１）本時の目標

・ペアになった教師と身体を揺らしたり、声を出したりして楽しい気持ちを表現することができる。
・自分のやりたい楽器やペープサートを表情や身体の動き、発声などで意思を伝え選ぶことができる。

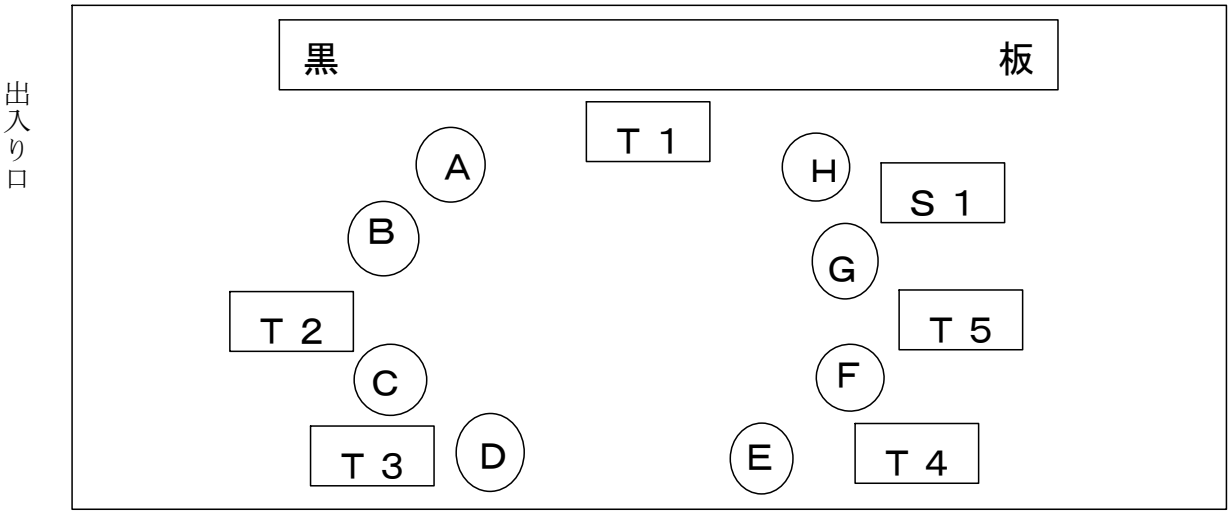
（２）展開

時　配	学習活動	支援上の留意点	教材・教具
	○Ａ１組の教室へ移動する。	・その日の体調に応じて、座位保持いす、クッションチェアーなどの姿勢を決めるようにする。 ・児童同士もお互いの表情や動きが見えるように、座席は円形にする。	・座位保持いす ・クッションチェアー ・ＣＤデッキ

３分 １分 ２分	○おんがく係を決める。 ・やりたい人は教師へ表情や身体の動き、発声などで伝える。 ・係はおんがく係のアイテムをつける。 ○はじめのあいさつをする。 ・おんがく係ははじめのあいさつをする。 ○活動内容を知る。 ・活動内容が提示されたホワイトボードに注目する。 ・Ｔ１の話を聞き、本時の活動内容について知る。	・これから活動が始まることが意識できるように曲を流す。 ・やりたい人がいるかどうか聞き、表情や身体の動き、発声などを見落とさないようにする。（Ｔ１） ・Ｔ２、Ｔ３、Ｔ４、Ｔ５、Ｓ１からも児童の変化を声に出してＴ１に伝える。 ・おんがく係ということが意識できるように、係のアイテムを付け、ホワイトボードにもおんがく係の顔写真を貼る。（Ｔ１） ・おんがく係の表情や身体の動き、発声などに応じて、「これから」「おんがくであそぼうを」「はじめます」と教師が言葉で支援し、あいさつを行う。（Ｔ１） ・ホワイトボードに注目するよう言葉をかけたり、ペアの教師が顔を向けられるよう支援する。 ・本時の活動について伝わるように、絵や写真カード、実物を提示する。（Ｔ１）	・おんがく係のアイテム ・ホワイトボード ・児童の顔写真 ・ホワイトボード ・プログラム ・実物
５分	○はじまりの歌 「　からだコンサート　」 ・教師と一緒に身体の部位に触れながら、歌を歌う。	・表情や身体の動き、発声などの表出が出やすいように児童の正面に座る。 ・楽しい雰囲気が感じられるように音楽に合わせて手のひらや身体に触れる。 ・教師と一緒に触れ合うことができた児童がいたら賞賛する。	・ＣＤデッキ ・歌詞カード
１０分	○ペープサート 「　ふうせんのうた　」 ・自分のやりたい色を決める。 ・歌に合わせてペープサートを動かす。	・児童の正面から見やすい位置に、教師が２つの色のペープサートを提示し、どちらを担当したいか聞き、表情や身体の動き、発声などの表出を待つ。（Ｔ１） ・どちらにも表出がなかった場合は、他の色のペープサートに変えてもう一度聞く。（Ｔ１） ・表情や身体の動き、発声などでペープサートを選ぶことができた児童を賞賛する。 ・児童の動きに合わせて歌を歌う。 ・自分のペープサートを動かしたり、友だちの動きに視線を向けたりすることができた児童を賞賛する。	・歌詞カード ・ペープサート ・ホワイトボード
１０分	○楽器 「　ちきゅうはうたう　」 ・自分のやりたい楽器（ツリーチャイム、ウッドブ	・ひとつひとつ楽器の音を出して音を確認してから、どの楽器をやりたいか聞く。（Ｔ１）	・ＣＤデッキ ・歌詞カード ・ツリーチャイム

	ロック、カバサ、トライアングルなど）を決め、教師に伝える。 ・歌が流れている間、楽器を鳴らす。	・表情や身体の動き、発声などの表出を見て決める。（Ｔ１） ・表情や身体の動き、発声などで楽器を選ぶことができた児童を賞賛する。 ・自分から手を伸ばして楽器を鳴らしたり、楽器の音をよく聞いたりすることができた児童を賞賛する。	・ウッドブロック ・カバサ ・トライアングル
５分	○リラクゼーション 「　にじ　」 ・オーガンジーの布を手に持って歌を歌う。	・布を持ちやすいように持ち手を付ける。 ・必要に応じて教師と一緒に持つ。 ・布をよく見たり、触れたりするなどして、歌を楽しむことができた児童がいたら賞賛する。	・ＣＤデッキ ・歌詞カード ・オーガンジーの布(小) ・オーガンジーの布(大)
３分 １分	○おんがく係の賞賛 ・がんばったことを発表する。 ・係のアイテムを教師に渡す。 ○おわりのあいさつをする。 ・おんがく係はおわりのあいさつをする。	・がんばったことを顔の表情や身体の動き、発声などで児童が表現しやすいように、教師が言葉で支援する。（Ｔ１） ・「またやりたい」という気持ちがもてるように拍手で賞賛する。 ・おんがく係の表情や身体の動き、発声などに応じて、「これで」「おんがくであそぼうを」「おわります」と教師が言葉で支援し、あいさつを行う。（Ｔ１）	・おんがく係のアイテム

（３）配置図



※児童や教師の配置は、その日の体調や出席状況に応じて変更することがある。

（４）評価

・ペアになった教師と身体を揺らしたり、声を出したりして楽しい気持ちを表現することができたか。
・自分のやりたい楽器やペープサートを表情や身体の動き、発声などで意思を伝え選ぶことができたか。

7　児童の様子、目標、手立て

	本時までの様子	本時の目標	本時の手立て
Aさん	・担任以外の教師とも、緊張しないでかかわりを持つことができる。知っている歌は、曲が流れると声を出すことができる。 ・「～やりたい人？」の問いかけで返事をしたり、視線を向けてやりたいものを選んだりすることができる。	・「にじ」の歌では、声を出して歌ったり、布の動きを見たりすることができる。 ・「ふうせんのうた」では、やりたい色のペープサートを選ぶことができる。	・歌いたいという気持ちになるように、ペアの教師が本人に聞こえるように歌ったり、布を動かしたりする。 ・色の違いのはっきりした風船のペープサートを二者択一で選ぶようにする。
Bさん	・その日の体調によって、言葉掛けの反応に大きな差がある。 ・「ふうせんのうた」のオレンジの風船が好きで、歌が聞こえるとうれしそうな表情になる。	・教師からの言葉掛けに視線や表情、発声などの方法で応えることができる。 ・視線や表情で、やりたい色のペープサートを選ぶことができる。	・水分補給や排泄など、できる限り体調を整えた上で学習に参加する。 ・好きな色のオレンジ色と、もう１色の二者択一で選ぶようにする。
Cさん	・歌を聞くことは好きで、耳を近づけたり体を横に揺らしたりする。ダイナミックな動きが好きである。 ・欲しいものが目の前に提示されると、手を伸ばして取ろうとすることができる。	・「からだコンサート」の始まりの歌では、教師の歌を聞きながら、身体の部位を触れられることを楽しむことができる。 ・欲しい楽器に手を伸ばし、選ぶことができる。	・本人に聞こえるように大きな声で歌を歌ったり、刺激が感じられるように身体の部位を触ったりする。 ・本人の好きそうな楽器を用意し、音を出しながら目の前で提示する。
Dさん	・特定の教師がそばに来ると笑顔になり、離れると泣いてしまうなど、人を意識して気持ちを表現することができる。 ・歌や楽器の音が聞こえると笑顔になったり、音のする方へ視線を向けたりする様子が見られる。	・ペアになった教師に対して、笑顔や右手を動かし楽しい気持ちを表現することができる。 ・自分のやりたい楽器を視線で選ぶことができる。	・ペアになった教師は、本児の視線に合わせて一緒に活動することを伝える。 ・２つの楽器を本児の視線に合わせて提示し、反応を待つ。反応が見られたら、気持ちを受け止めたことを伝えて賞賛し、もっと伝えようという意欲を引き出す。
Eさん	・教師からの働きかけに対して、視線や発声、手の動きなどで応えることができる。 ・ペープサートを提示すると、時間はかかるが視線や笑顔で応えることが多い。	・ペアになった教師と視線を合わせたり、笑顔になったりして楽しい気持ちを表現することができる。 ・自分のやりたいペープサートを視線や発声で伝えることができる。	・次に何をするのか言葉で伝えて安心できるようにする。教師がそばで楽しく歌いかけるなど、雰囲気を盛り上げる。 ・２色の風船を本児の視線に合わせて提示し、反応を待つ。反応が見られたら賞賛し、もっと伝えようという意欲を引き出す。

Ｆさん	・曲に対する反応はあまりない。また、人の動きを目で追ったり、声のする方に顔を向けたりすることもあまり多くないが、繰り返し活動することで表情が和らぐ。 ・好きなものには、手を出すことがある。	・ペアになった教師と目を合わせたり、笑顔を出したりして、気持ちを表現することができる。 ・２つの楽器から、演奏したい楽器に手を出すことができる。	・視線が合うように、顔を近づけたり、歌と一緒にタッピングをしたりして、耳からだけでなく、全身で音楽を楽しめるようにする。 ・目の前に持っていった時に、手が出そうな楽器を用意し自分から手を伸ばせるようにする。
Ｇさん	・歌を聞くことは好きで、自分から耳を近づけることがある。また、教師や友だちの動きを目で追ったり、声のする方に顔を向けたりする。 ・目の前に提示されたものを見比べて、好きなものに手を伸ばすことができる。やりたくない楽器や、気持ちがのらないときは、自分のそばから楽器を遠ざけることがある。	・曲に合わせて行うタッピングで笑顔になるなど、ペアの教師と楽しみながら活動することができる。 ・自分から手を出して楽器を選ぶことができる。	・耳元で歌うなど、本人の好きなことや活動を多く取り入れる。 ・好きな楽器を用意し、自分からすすんで手を伸ばして取ることができるようにする。
Ｈさん	・歌を聞くことは好きで、繰り返しの歌や簡単な歌詞はすぐに覚え、歌を歌ったり、頭を左右に振ってリズムをとったりする。 ・教師の言葉を聞いたり、提示されたものを見比べたりすることができる。言葉で伝えたり、手を伸ばしたりして、ものを選ぶことができる。その時の気持ちによっては、「やらない」などと言って選ばないこともある。	・歌詞の一部を覚え、一緒に歌を歌うことができる。 ・「ふうせんのうた」では、教師の問いかけに自分の言葉でやりたいペープサートを伝えることができる。	・教師が歌詞を先に伝えたり、歌詞をサインにして伝えたりする。 ・色名をはっきりと伝えるようにし、本人の言葉を待つようにする。手を伸ばして選ぼうとした時は、ペアの教師が一文字目や色名を伝えるようにする。

８　資料

プログラム	おんがく係アイテム	ペープサート
ホワイトボードに貼って提示する。活動が終わったらめくる。	おんがく係になった児童が身に付ける。	８色の風船を開くと、同じ色の食べ物や生き物などが出てくる。取り外して近くで提示できる。
楽器	オーガンジーの布（小）	オーガンジーの布（大）
「振って音の出る楽器と、道具を使って叩くことで音の出る楽器を用意する。	オーガンジーの布に持ち手を付けて、持ちやすくした。 「にじ」の歌で使用する。	「にじ」の歌の中で、リラックスできる空間を演出するために、教師が使用する。

児童の変容、支援の改善について

授業実施日	平成２７年９月９日（水）	記録日	平成２７年１２月１日	記録者	Ｔ１

授業時の課題
①「YES」「NO」どちらでもない場合の対応
②楽器を提示する場の改善
③児童から離れる時の教師の言葉かけ

助言内容　　※講師助言（保科靖宏先生）：講　参加者助言：参
講：ペアになったＳＴがしっかりと、児童の表出を読み取り、受け止めて児童へ言葉で返したり、ＭＴへ伝えたりすることが大切。
参：・児童の実態把握、個々に合わせた教材の工夫や支援、要求の場をつくる。
・集団の取り組みをもつだけでなく、個人での取り組みをもち、その取り組みを集団の中で出すこと。
・「やりたい」「楽しい」以外の「私はこれがやりたい」「やりたくない」という気持ちを引き出す工夫を、個々の児童に応じて行う。
・児童の小さい表出を大切にしつつ、児童と教師の距離感を場面に応じて変化させたり、児童の視線の向きを変えたりする。

改善点　　※上記の課題と対応
①ペープサートの場面で、児童がＡとＢどちらも選ばなかった時、代替えとするＣを提示した。
②楽器を提示する時に、机を使用し児童から見えるようにした。
③おんがくの学習時だけではなく、日常生活の場面でも教師が離れる際には「〇〇へ行ってくるね」「ちょっと離れるね」などと言葉をかけてから離れるように、かかわり手が心がけるようにした。

変容　　※改善点と対応
①今まで選んでいたもの（オレンジ）とは違う色のペープサートに視線を向ける、笑顔を見せることで選択した。自分で決めたペープサートを手で操作して開くと、いつもと違うものがでて出てきたが、視線を向けてよく見ていた。友だちが児童の以前選んでいたオレンジ色のペープサートを選び、操作する様子をよく見て笑顔を見せていた。アンパンマンが出てくるとさらに笑顔を見せ喜ぶ姿が見られた。ペープサートを介して友だちへ意識を向けることができた。
②机を使用し、教師が１つずつ音を出して楽器を提示するようにしたことで、児童の顔が上がることが多くなり、教師の持つ楽器の方へ注目することが増えた。また、児童によっては、見えることで自分のやりたい楽器を目で追えるようになり、身を乗り出して手を伸ばす姿も見られた。
③教師が離れることを伝えると、教師の方を向いて頷くようにして発声したり、言葉で「いってらっしゃい」などと言ったりする児童もいた。

今後の課題、指導の重点

コミュニケーションにおける自己選択、自己表現、やりとり

①コミュニケーションの基礎的能力に関すること
〈表情などの表出〉
特定の人や教材だけではなく、他の人とのかかわりやいろいろな教材を使った遊びでも、表情やしぐさを表す機会を広げていく。
〈身振りやサインの理解〉
「ちょうだい」の要求や、あいさつだけでなく日常生活の中でも言葉とともにサインを取り入れる。
〈相互関係〉
児童が教師を意識する活動・・・遊具で一緒に遊ぶことだけでなく、たくさん話しかけることや、絵本の読み聞かせ、手遊びなどの活動が考えられる。また、児童が教師の気持ちを感じとりやすいように、声に抑揚をつけたり大きな身振りを加えたりして伝えていくようにする。
児童と向かい合ったときに「ちょうだい」だけでなく、「どうぞ」も大切にしていく。
②言語の受容と表出に関すること
〈意思の表出〉
笑顔、無表情、悲しそうな顔、泣くなどの表情、動作の変化を教師が言葉で代弁していく。
偶然目に入ったものに手を伸ばしやすいので、「選ぶ」機会をたくさん設け意味が理解できるようにしていく。

６　自立活動題材例

題材名	クリスマス会で木琴演奏を発表しよう
目　標	・手首を動かして木琴を叩いたり、腕を横に動かしたりして音を出すことができる。
児童、指導者	小学部　訪問学級１組　児童１名（女子）、指導者１名

学習の進め方（⇒はその後の変容）	資　料
１　はじまりのあいさつをする。（身体の動き） ・からだを動かしたり、バランスボールを用いたりして全身の弛緩を行う。 ・手の平に触れたり、指を開いたり閉じて握ったりする動きを行う。	・ＣＤ ・ＣＤデッキ ・バランスボール
２　起立台を使用し立位の姿勢を取る。 ・腕が前方に向いている姿勢を保持するために脇の下に三角クッションを置く。	・起立台 ・三角クッション
３　木琴演奏 ・音が出やすくなるように指サック（ビーズをテープで固定したもの）を使用し、人差し指に装着する。 ⇒手首を動かすことによって偶然に木琴に当たり音が出ていたが、音が出たときには「すごいね」「じょうずだね」の声かけを必ず行うようにした。音の出る回数が増加し、次第に腕を横に動かして音階を奏でるような動きも見られるようになった。 ・描画の時間にクレヨンを人差し指にテープで固定し、親指で挟むように持つと筆圧が上がり色濃く描くことができたことから、バチを使用して音を出すことを行う。バチはプラスチック製のものを使用した。 ⇒バチと人差し指をテープで固定し、バチが手の平全体で握れるようにした。右手は握りながら手首や腕を動かすことは困難だったようで音を出す時は手放してしまっていた。左手は握り続けることができた。また、手を木琴の上に置くことで手首を回すように動かして音を出すことができた。最終日にはテープの固定がなくてもバチを持ち続けることができた。	 ・卓上木琴 ・指サック（ビーズをテープで固定したもの） ・プラスチック製のバチ
４　おわりのあいさつをする。 ※ＣＤでの曲は活動の意味付けとして活動ごとに異なる音楽をかけている。	

題材名	秋まつりをしよう
目　標	・集団の雰囲気を感じたり、周りの人を見たりしながら活動に参加することができる。 ・自分なりの方法で思いを表したり、人に伝えたりすることができる。
生徒の集団、指導者	中学部　生徒６名（男４名、女２名）、指導者５名

学習の進め方（⇒はその後の変容、□の中は今後の課題）	資　料
1　はじめのあいさつ その日の号令係の生徒を知り、注目する。号令で一斉に挨拶をする。 授業で行う活動を知る。 2　秋まつりをしようの準備と練習 ・看板作り、的作り、掲示物作り（３時間） ⇒看板、的、掲示物を作ったり、客や店員の練習に取り組んだりすることで、秋まつりへの意識付けとなった。 ・秋まつりをやってみよう（お店の練習）的当て・釣り（各１時間） 客と店員に分かれ、交代で体験・練習をする。 ⇒客としてゲームのやり方を知ることができ、店員としての役割を知ることができた。 3　秋まつりをしよう ・秋まつり本番（１時間） ⇒生徒同士のかかわりで、店員がお互いに協力して活動する場面が見られた。 ⇒生徒同士のやりとりで、客と店員に分かれて他の学級と合同で活動する機会を設けたことにより、コミュニケーションの幅が広がった。 ・もう一度まとめの秋まつりをしよう（１時間） ⇒秋まつりと同じ活動内容で進めたことにより見通しを持って活動に取り組めた。 ⇒音源により状況を把握しやすくし、太鼓を使った合図など、生徒に伝える工夫をしたことで、活動に気持ちが向き、表出が顕著になった。 ⇒活動の様子を友だちに注目しやすいようにしたことで、友達に顔を向けるという表出につながった。 4　終わりのあいさつ 授業全体を振り返り、次回の活動を知る。号令係の生徒に注目する。 号令で一斉に挨拶をする。 個々に合わせた補助具の活用や細かい表出への着目で、生徒達の表出の幅を広げることに繋がった。今後はそれらの表出を担任以外の教師とも共通理解を図っていく。小さな表出を受け止め、返していくことで、生徒達からの自発的な表出を増やしていく。	・はっぴ ・豆しぼり ・ＣＤラジカセ ・パーティション ・折り紙、カラーホイル ・画用紙、色画用紙 ・カラーボール、すず入りボール、とい ・ゴムでっぽう、輪ゴム ・的（光沢付き） ・すず、ステップバイステップ、太鼓 ・かご、マグネット釣り竿 ・クリップ付き魚

題材名	夏祭り集会をしよう（パラバルーンで風を感じよう）
目　標	学部を問わず多くの人とかかわり、一緒に活動することができる。
生徒の集団、指導者	高等部Ａ１組　生徒３名（男３名）、指導者２名

学習の進め方（⇒はその後の変容、□の中は今後の課題）	資　料
夏祭り集会は、高Ａ学級・中Ａ学級が出し物を用意し小Ａの児童を招待する。	
1　はじめのあいさつ 高Ａ２・３組と合同練習するときはSkype®を通して学級の様子を共有する。	・Skype®（事前にどの時間帯に接続するか確認する）
2　夏祭り集会の練習 ・招待状作り（３時間） 日時、場所などを示した招待状を作成し、小Ａの児童に手渡す。 ⇒招待状を作ることで、夏祭り集会への意識付けとなった。直接、児童に手渡し、表情を見たり、教師の言葉かけを聞いたりすることで、夏祭りへの意欲づけと自信をつけることができた。	・招待状
招待状を作成して、手渡すことで生徒にとって自信となり、一つの良い経験となった。他者とのやりとりを通して、自分の気持ちを相手に伝えられるようにしていきたい。	
・風鈴、提灯作り（３時間） 生徒に興味関心のあった風鈴や提灯を作成する。 ⇒オリジナルの風鈴や提灯を作り、友達の作った風鈴の柄を見たり、音を聞いたりして季節を感じることができ友達の作品を評価することができた。	・提灯 ・風鈴 （市販のものに色をつける）
・出し物練習（４時間） 音楽に合わせて、パラバルーンを動かして風鈴を鳴らし、感想を聞く。その映像をビデオで撮影し、練習後すぐに映像で振り返る。 ⇒出し物の練習では係（司会、エスコートなど）を決めることで、自分の活動に責任を持ち、最後まで活動に取り組むことができた。 ⇒ビデオで振り返ることで、反省点、良かった点をまとめることができた。プリントに記入することで、前回までの反省点を生かして活動に取り組むことができた。 ⇒高Ａ２・３組と合同で練習する機会を設けることにより、本番に近い練習となり、生徒同士で感想や意見を話し合う機会が増えた。	・パラバルーン ・振り返りシート（項目） ・声の大きさ ・パラバルーンの手渡し方や動かし方などを自己評価した。
活動を通して、上手にできたことがわかり、またやってみたいという気持ちを高められた。これからも新しい経験を少しずつ取り入れていき、できた喜びを感じることができるような活動をしていくことが大切だと考え	
3　おわりのあいさつ	

題材名	自分の気持ちを伝えよう
目　標	・カードの選択により、気持ちを伝えたり、活動を選択したりすることができる。
生徒の集団、指導者	高等部Ａ３組　生徒１名（男１名）、指導者１名

学習の進め方（⇒はその後の変容、□の中は今後の課題）	資　料
○表情カードによる気持ちの選択 ・【うれしい・たのしい】、【おこる・いやだ】、【おどろく・わからない】、【かなしい・いたい】、【こまる・うるさい】の５種類の表情カード（気持ちを表す言葉付き）を用意した。 ・「【うれしい】表情はどちらですか？」と言葉をかけ、指先でカードに触れるのを見たり、「はい」の表出を読み取ったりすることで、１枚ずつ表情とカードの意味を確認した。 ⇒経管栄養中に担任が隣で、「給食を食べていいですか？」とたずねて、【たのしい】と【いやだ】の表情カードを提示すると、【たのしい】のカードに触れて、笑顔を見せた。 表情カードを使うことで気持ちの読み取りの精度を高めたり、やりたい、やりたくないという意志を確認したりしながら主体的な活動に取り組めるようにつなげていく。	・表情カード
○活動の選択 ・経管栄養をポンプで行う場合には約９０分かかるので、その間に活動を用意した。 ・本人の興味関心をもとに『パソコン（音楽の動画）』と『絵本の読み聞かせ』の写真カードを提示して、「どちらにしますか？」と言葉をかけた。 ・腕を動かし、親指の曲げ伸ばしでカードを選択し、「○○でいいですか？」と言葉をかけると口を大きく開いて「はい」と表出することができた。 ⇒毎回同じカードを選ぶのではなく、日によって活動を選択する様子が見られた。『絵本の読み聞かせ』を選択したときには、２冊の絵本を提示すると読んでほしい本も選ぶことができた。	・活動カード ・パソコン ・絵本

7　全校研究会について

○日程：9月9日（水）

○授業：小学部A学級「おんがくであそぼう」

○内容：

１．授業参観（ビデオ視聴）

＜参観のポイント＞①～⑥

【授業の振り返り】

①児童からの表出を適切に読み取ることができたか。

一人一人異なる表出（目の動き、指や腕の動き、声など）に対して、そばにいるSTがよく見て気づいたり、表出しやすい工夫をしたり、表出を待ったりすることで、児童の主体的な表出をていねいに読み取ることができていた。

②児童の興味関心を引き出すような授業内容だったか。

期待感を持てるペープサート、触感や色鮮やかなオーガンジーに対して興味をもっていた。そばにいる教師と触れ合ったり、音楽を聞いたりしたことで楽しい雰囲気で取り組むことができていた。児童の反応を待つ場面で、他の児童の待ち時間が長くなることがあるのでその時にSTの動きがどうするかを工夫していく必要がある。

③コミュニケーションをとる対象を広げることができるような授業内容だったか。

コミュニケーションをとる対象を広げるというねらいで、毎回担当が変わることは有効だと思われる。しかし、発達段階を考えると、一対一のかかわりに重点をおいてもよいのかもしれない。児童同士のかかわりができる場面設定も考えられるとよい。

④課題は適切に設定されているか。また支援、手だては適切に行われていたか。

既存の楽器、音源だけでは、個々の実態に応じた手だて、支援とするのは限界がある。児童が歌えるテンポ、児童の持っている力で鳴らせる楽器を用意することで主体的な「もっとやりたい」と思う気持ちを伸ばすことができると考える。MT、ST かかわらず即時評価をすることができていたのが、児童の意欲につながったと考えられる。

【今後の取り組み】

⑤コミュニケーション能力を生かすためにはどのような課題、かかわり方が考えられるか。

◎かかわり方について

かかわる教師が児童の表出について、興味関心について共通理解する。そのためには、かかわりた方を一つにこだわらず、工夫しその都度検証していく姿勢が大切になる。発達段階に応じて、一人の教師とじっくりかかわったり、いろいろな人とのかかわりを広げていったりすることも大切になる。

◎課題設定について

児童同士のかかわり、もしくは友達を意識できるような課題設定をすることでコミュニケーションの幅が広がることも考えられる。実態の異なる集団での学習では難しいが、内容の量を精査して柔軟に対応することも求められる。

⑥コミュニケーション能力を生かすためには、どのような取り組みが考えられるか。

・固定化されない人間関係づくりが必要だと思う。活動集団によって変える。

・五感に働きかけるような教材の工夫をする。　　など

２．グループディスカッション（発表形式を穴埋め式にして簡潔に意見をまとめて発表してもらった）

・私たちは、小学部 AC 学級の児童に対して、コミュニケーション能力を生かすために、**（本人の興味関心のあることを取り上げ、少ない支援で児童が経験できる環境を作り、共有する）（安心して自分の気持ちを表出できる環境を整えていく）（児童の小さい表出を大切にしつつ、児童と教師の距離感を場面に応じて変化させたり、児童の視点を変えたりする）**ことが、適切だと考えました。

※全 16 グループの活発な意見交換の中から（）内のような協議のまとめがあった。

３．講師指導（講師：千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事　保科靖宏先生）

≪指導案について≫

・題材は子どもたちが覚えやすく期待感を持ちやすい題材名がよい。

・生活単元学習なのか、音楽なのか、自立活動なのか、厳密に分けることは難しいが絞った方がよい。また、音楽や楽器はあくまでもツールであり、その先に何をねらうか整理する必要がある。

・全体の振り返りは設けず、その場その場ですぐフィードバックしていたのがよい。また、すぐに近くの教師がフィードバックすることで、個々に関わっているＳＴがその子にとってはＭＴにもなり得る。また、全体を見るＭＴは個々の実態を把握し、言葉かけや支援をした上で更に全体を見ること（授業を作ること）が大切。

・学校生活を通して育てたい生徒像、卒業後の目標（期待する姿）について教師同士でもっと話し合うべき。その子その子の幸せを考え、愛される人物になってほしい。

・題材の目標を達成させるために本時では何をどこまでねらうのかを明記する。またそれをみんなで確認することが大切。

≪授業の様子について≫

・子どもの実態把握ができている。教師の基本的な役割分担も良い。子どもの安心感につながるようにＳＴが場を離れる時などは、言葉をかけるとよい。（子どもの安心感につながる配慮をする。）

・学習環境（配置）が良い。しかし音の大きさが適切だったのかは確認した方が良い。

・準備→期待・予測→演奏→リラックスの４部構成が良い。

・音楽は手だてであって、目的ではない。

・子どもたちの信号を多くの教師が拾おうとしていて良い。子どもたちの信号を高めていくような支援をすることが必要。（ＮＯがあっても良い。なぜＮＯなのかを考える。）

・直後強化はよい（すぐフィードバックすることが大切である。）

・子どもたちの感覚の使い方、理解の仕方を把握することが必要。

・始点と終点の理解　「子どもが楽器を持っている。」←まだやりたい合図ではないか。次の学習を伝え（次の始点を期待することで）、納得して終点を作る。

・その子ならではの理解力があることに私たちが気づくべきである。

・その子その子の課題、年代にあった教育課程の編成に結びつけられるか。

≪まとめ≫

・その子その子にあった支援が必要（一律の手だてはない。）。

・授業は教師と子どもで作るものである。

・「障害が重い子」ではない。その子の大変な努力を知り、その子の力を生かす。

・教師の発想の転換が必要である。（クリエイティブな発想）

・子ども自身が感覚の使い方を理解し活用できる支援ができているか。

８　まとめと今後の課題

ＡＣ学級では今年度のテーマとして「児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を生かすための授業」を念頭に置き、以下の３つの方法で実践してきた。

①個々の表出について共通理解し、気付き、受け止め、言葉や動作で返していく。

小学部の『おんがくであそぼう』では、個々の表出について快の状態、不快の状態に分けて一覧表を作成し、共通理解を図るようにした。その一覧をもとに児童とペアになったＳＴが児童の表出を読み取り、受け止めて児童へ言葉で返したり、ＭＴへ伝えたりすることを心がけて取り組んだ。そのことによって、児童の細かい表出を全体へ伝えることができ、その結果、ＭＴやＳＴにかかわらず即時評価に繋がった。すると、児童は頑張ったことや成功したこと、嬉しかったことをすぐに共有でき、児童が表出しやすい環境を整えることができた。また、期待感から活動の前後で笑顔が多く見られ、「もっとやりたい」という表出が増えた。このことから、個々の活動に対する見通しを持ったり、自己肯定感を高めたりすることができた。

中学部の『秋まつりをしよう』では、生徒の表出に気付いたＳＴが周りに伝えることを意識し、ＭＴが改めて取り上げて紹介することにした。名前を呼ばれたときや係分担に取り組むときに声を出すことに固執せず、目や手の動きや表情などの微細な表出にも着目し、意味づけをしてＳＴやＭＴが全体に周知した。そのことによって、生徒の表出の幅が広がり、呼名や秋まつりの係分担における成功体験が増え、笑顔が多く見られた。また、「〇〇さん、僕が名前呼んだら目も手も動いたよ」と、生徒同士のやりとりの中で細かい表出に生徒自身が着目する姿も見られた。生徒の中にも相手を意識し、気付き、受け止める気持ちが芽生えたことを実感することができた。このことから、成功体験を通してお互い意識し合い、受け止め合うような自己肯定感を育む活動になったと考える。

②児童生徒の興味関心を引き出し、自分から表出する機会を増やす。

中学部の『秋まつりをしよう』は、昨年度行った夏祭りの学習を基本としている。夏祭りで店員と客のどちらも経験し、生徒たちから「またやりたい！」と要望が出たため、夏祭りを改良する形で今回の『秋まつりをしよう』に取り組むことになった。祭りを企画する上で、どうしたら全員が運営に参加し、全員が客として楽しめるかを生徒たちと考えた。その中で、【運営する生徒に一人一役の係分担を設ける】、【様々な補助具を使用し、五感で楽しめるようにする】という意識で計画した。当日は号令係、的が倒れたことを知らせる係やタイマーのスイッチを押す係などのお店の運営に関する役割を設けた。特に自らの大きな表出が難しい生徒にはスイッチや楽器などの補助具を使用することで、小さな動きや表出でも役割を果たすことができ、全員が運営に参加し達成感を得ることができた。

高等部Ａ１組の『夏祭り集会をしよう』では、小学部の児童を招いてパラバルーンを音楽に合わせて動かし、その風で風鈴を鳴らして、風や音を楽しんでもらうという練習を用意した。パラバルーンの操作はこれまでに取り組んだ経験があり、生徒たちにとって馴染みのある動きである。生徒が夏を連想させる曲を選択することで生徒の興味関心を引き出せるような活動を計画した。パラバルーンを動かす練習を重ねる中で、友達や教師に視線を向けて笑顔になる様子が見られたり、パラバルーンの動きを周りと合わせたりすることができるようになった。活動の様子を撮影して見ることで、振り返りをした。そうすることで、自分たちの良いところや改善点に気付くことができ、前回よりも自信をもった表情でコミュニケーションをとることができた。

③コミュニケーションをとる対象を友達や担任以外の教師に広げ、やりとりをする。

小学部ではコミュニケーションをとる対象を広げるという観点から、毎回一緒に活動する担当教師を変えて授業を行った。すると「今日のペアの先生は誰だろう」「どんな活動があるのだろう」と、児童が顔写真やカードに視線を向けたり笑ったりするなど、期待感をもつことができるようになってきた。加えて、教師間で支援や手立ての共通理解を図ることで、教師が変わっても同じ支援ができた。結果的にその複数の教師が児童の表出にかかわることで、コミュニケーションをとることができる対象を広げることができた。また、配置を円形にすることで、友達のペープサートに注目したり、活動の様子に視線を向けたりすることが多く、友達への意識も高まってきた。

訪問学級では授業の中で本児の得意な動き（腕を持ち上げて手首を揺らす）から「終わり」「さようなら」の意味が持てるような取り組みを行った。授業の最後に教師が「バイバーイ」とくり返し言葉をかけて本児のリアクションを待つことにした。本児が手首を揺らして応えた時は「そうだね、バイバイだよね」と言葉を添えながら手に触れて一緒に揺らしていくようにした。声の方を見たり、顔を向けたりする様子から徐々に腕を上げて手首を揺らして応えてくる動きが増えてきた。また、教師の声が聞こえると同じように腕を上げて手首を揺らしてあいさつするような素振りも見られるようになった。

高等部Ａ１組では夏祭り集会の日時や場所などを記した招待状を作成し、児童に手渡した。児童に手渡す際には、「遊びに来てください」や「どうぞ」と言葉をそえることができた。児童が喜んで受け取ってくれ、一層練習に力が入り、当日も児童とやりとりしながら夏祭りを運営することができた。また、練習ではＡ２組の生徒を小学部の児童に見立てて、招待する練習に取り組んだ。その中で普段かかわることが少ない人に対して言葉をかけたり、身振りや表情でコミュニケーションをとろうとしたりする様子が見られた。Ａ２組として、夏祭り集会では和太鼓を担当して小学部を招待した。「いらっしゃいませ」や「和太鼓を叩たたきます」と言葉をかけたり、たたいている様子に視線を向けたりするなど相手を意識したかかわりが見られた。

≪今後の実践に向けて≫

授業実践を積み重ねていく中で、多くの反省や助言があり、課題が明らかになった。その中から類似した課題として、小学部では【特定の人や教材だけでなく、他の人とのかかわりやいろいろな教材を使った遊びでも、表情や仕草によって気持ちを表す機会を広げていく】という課題、中学部では【生徒が自発的に気持ちを表出できるよう、一人一人の小さな表出を全体で共有できるようにする】という課題、高等部では【一つ一つの課題に対して、できた経験を増やしていき、自らの意志で活動に取り組めるようにしていく】という課題がそれぞれあげられた。

そこで次年度は、個々の児童生徒のコミュニケーションや表出方法について、かかわる人全員で共通理解することができるように研究を深めていきたい。この課題の達成を目指すために、①児童生徒の表出にかかわる身体面、認知面における実態のアセスメントの整理。②児童生徒の表出する力を高めることができるようなチェックリストの作成。①と②より、誰がどの児童生徒とかかわっても同じような支援や手立て、評価ができるようにしていきたい。また、表出の広がりや誰とでもコミュニケーションがとれるスキルを授業内だけでなく、日頃の生活から意識して表出の読み取りの精度を磨いてくことで、社会生活の中で児童生徒がより豊かな生活を送れるようにしていきたいと考える。